

第3回大学問題シンポジウム

大学の自治・自律と学問の自由

—国民のための大学を目指して—



政府・文科省は学校教育法や国立大学法人法改定により教授会の意思決定権を制限し、学長選考にまで介入して学内自治を踏みにじり、大学の専断的運営を奨励してきました。人文社会系や教育系学部などの廃止・縮小政策、さらには軍学共同研究で学問の自由を侵しています。／高等教育に競争政策を持ち込み、財政赤字を盾に基盤的経費を削減し、学費値上げを容認する一方で、財界の要求する競争力強化や「グローバル人材」育成に適合する少数の大学には厚く予算をつける差別的配分を行ってきました。／大半が教育ローンという世界的にも劣悪な公的奨学金制度とも相まって、学生・院生の教育権が奪われています。また大学は経営面でも苦境に立たされ、私大の4割が赤字経営で、研究・教育条件の劣悪化が加速し、天下り官僚が役員に就いた大学では事態がより悪化しています。／この間、日本のほぼ全ての大学が多様な「改革」を試みましたが、一部を除き大半が機能不全、崩壊の危機に瀕し、解決の展望を見失っているかのようです。／政府・文科省の誤った大学政策に抗して、学生や市民が望む真の大学づくりを目指す議論を広げるために、シンポジウムを企画します。

報告1 大学自治の歴史と現在（仮題）

三輪定宣さん（元千葉大学）

報告2 文科省「天下り」問題と大学の自治・自律

晴山一穂さん（専修大学）

2017年3月20日（月曜・春分の日）

13:30～17:00（13時受付開始）

中央大学後楽園キャンパス

3300号教室（予定）

アクセス 東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」徒歩約5分／都営三田線・大江戸線「春日駅」徒歩約5分／JR総武線「水道橋駅」徒歩約12分

正門か東門から入校を。案内掲示あり

参加費（資料代）500円 ※学生無料



主催

日本科学者会議、平和と民主主義のための研究団体連絡会議、全国大学高専教職員組合、全国大学院生協議会、東京地区大学教職員組合協議会、首都圏大学非常勤講師組合（予定を含む。追加の可能性あり）